

No.9 園内保育での保育環境の工夫

～好きなあそびに没頭できる環境とは～

大槻翔・中村明日香・黒田智恵子(極楽坊保育園)

背景

極楽坊保育園では保育室の作りから、遊びのコーナーを常に作っておくことができず、自由遊びの際に机、椅子、ゴザなどを用意し、遊びのコーナーを設置している。

今回、色々な遊びの中でも子ども達がよく遊んでいたままごとに焦点を当てた。

遊びは、子ども達の興味や関心に沿って変化していく。それに合わせて、保育者はどのように環境を構成すれば良いかを考えた。

子どもの姿(3歳児クラス)



お皿の上に食べ物を乗せてピクニックをする



ぬいぐるみを赤ちゃんに見立てて、布団に寝かせる

仲の良い友だちと誘い合って、玩具で遊ぶ中
聞こえてきたこんな声...

ご飯できたよ
いただきます

赤ちゃん
寝てるから
静かにしてね

お買い物
行ってくるね

おかえり
なさい～

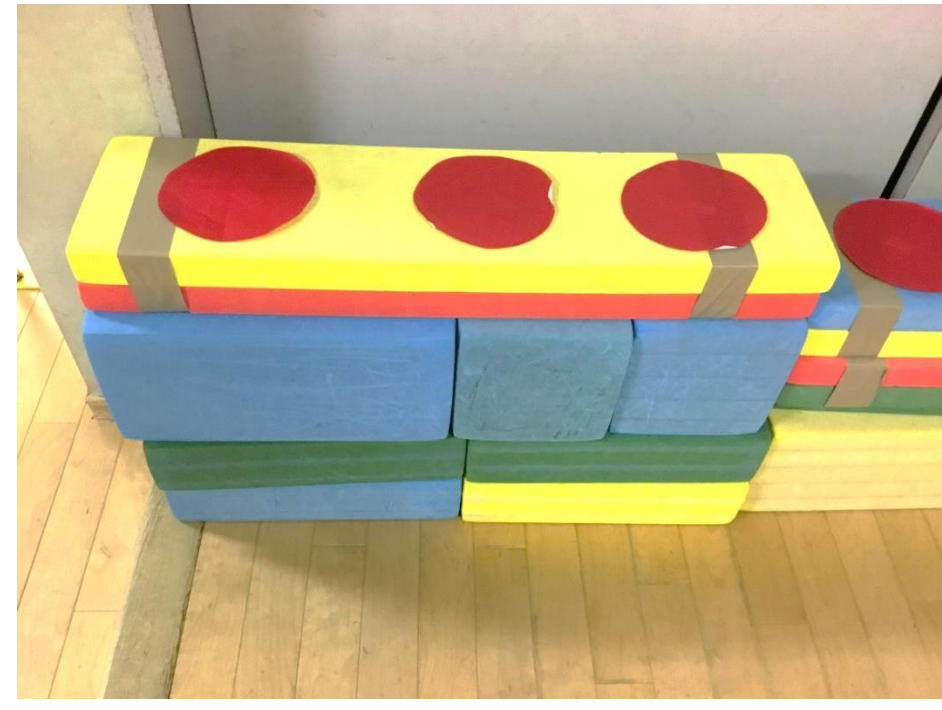
料理や買い物など、
役割を決めて家事を真似る姿

更に遊びを発展させるには
どうすれば良いのかなあ

そこで、遊びの中で“家庭で行われている身近な家事”ができるように以下の遊び道具を取り入れた。



洗濯物干し



IHコンロに見立てた
カラー積み木



段ボール箱

すると、遊びに変化が...

お片付け
しましょう

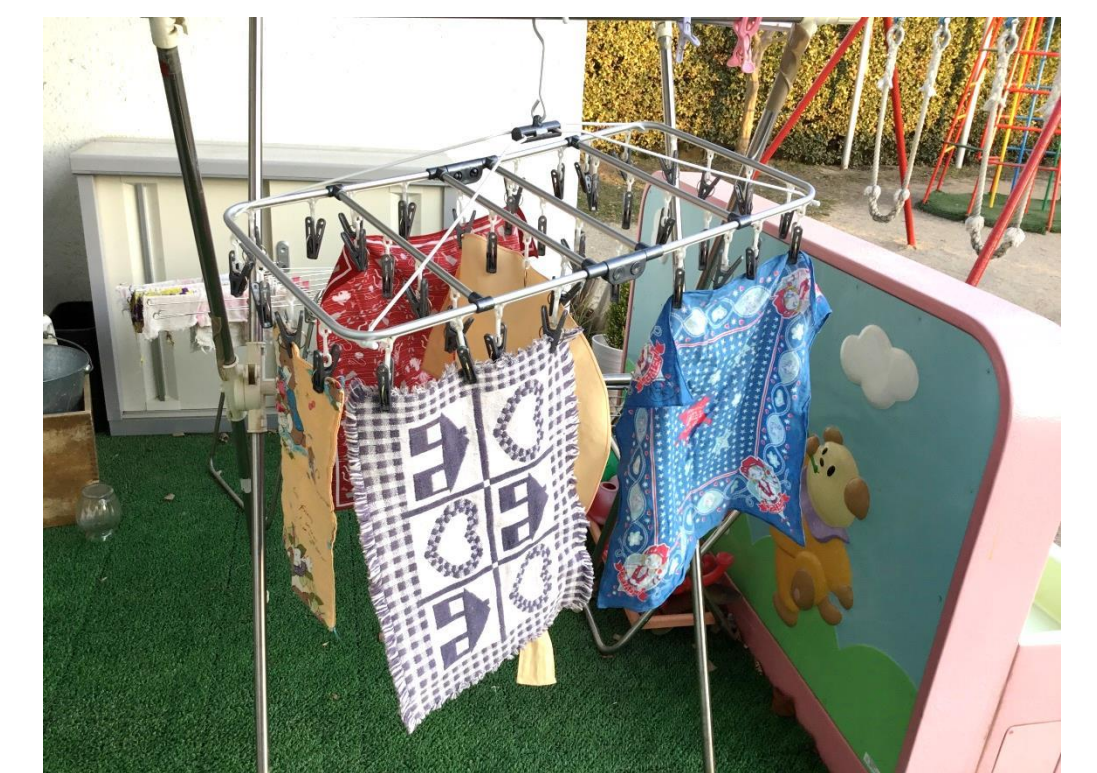


洗濯物を干して遊ぶ

まだ乾いてない
から、干しとく

まだ片付けたくない、
とのことだったので...

子どもが、
遊びの世界に入っている



一度、外に干して
夕方みんなを取り込んだ。

赤ちゃんが
寝てる間に
ご飯を作ろう



IHコンロで料理をする

料理が出来上がると、
「ご飯が出来たから、赤ちゃんを起こそう」と、ぬいぐるみを抱っこしてご飯を食べさせてあげていた。

ご飯だよ、
どうぞ～

遊びに
ストーリーが
できている

まとめ

子ども達の興味・関心を汲み取り、遊びが更に広がるきっかけになるような保育者の働きかけにより、遊びが発展的に変化するということを観察できた。今回の3歳児の遊びでは、料理や洗濯などの身近な家事といった、家庭で見たり、お手伝いをした『経験』を元に、子ども達の目線に合わせた3つの遊び道具を加えた。高さが生まれたことで、よりイメージが広がり、それぞれの役割に応じた活発な動きが見られ、更に、子ども達がままごとに没頭する姿が見られるようになった。

子ども同士がやり取りをする中で、保育者の意図した遊び方を越えた想像豊かな遊びが生まれることもある。子ども達の豊かな発想を受け止め、子ども同士で関わり合い、子ども達の成長・発達に繋がるような環境を作っていく事が大切であるということが分かった。